

中学部第*学年 音楽科学習指導案

日時	令和7年*月*日(*) 9:30~10:20		場所	中学部*年*組教室
指導者	T1 鈴木 美歩、T2 ** **			
単元名	「心を合わせて演奏しよう」			
本単元の目標	(1) 楽器の音色と全体の響きとの関わりに気付くとともに、友達の楽器の音や伴奏を聴いて、音を合わせて演奏することができる。 (知識及び技能)＜中学部Ⅰ段階＞ (2) 曲の雰囲気合いに合いそうな表現を工夫し、全体の響きを意識して友達と合奏することができる。 (思考力、判断力、表現力等)＜中学部Ⅰ段階＞ (3) 音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に器楽の学習活動に取り組もうとする。 (学びに向かう力、人間性等)＜中学部Ⅰ段階＞			
単元の評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
	・楽器の音色と全体の響きとの関わりに気付いている。 ・友達の楽器の音や伴奏を聴いて、音を合わせて演奏している。	・曲の雰囲気合いに合いそうな表現を工夫し、全体の響きを意識して友達と合奏している。	・音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に器楽の学習活動に取り組もうとしている。	
単元設定の理由	【生徒の学習状況に関すること】 ・本グループは、男子6名で構成されている。 ・簡単な言葉での説明や指示を聞いて活動できる生徒、教師の支援があると友達と一緒に活動することができる生徒など実態は様々である。 ・5名は歌唱をはじめとする音楽活動に意欲的であり、主体的に学習に取り組む姿が多く見受けられるが、1名は大きな音が苦手で、音楽活動全般に対し、苦手意識を抱いている。 ・四分音符、八分音符のリズム及び音階は学習済みで、伴奏に合わせてリズム打ちをしたり、階名唱をしたりすることができる。 ・「エーデルワイス」の演奏では、実態に応じて、一音ずつ異なる色で音階を示した楽譜を見ながら、旋律楽器を演奏したり、教師の言葉かけに合わせて打楽器を演奏したりすることができた。 【単元設定の根拠に関すること】 ・本単元は、「特別支援学校学習指導要領解説各教科等編(小学部・中学部)」の音楽科における、中学部Ⅰ段階の内容、知識及び技能イ(ウ)㊦「友達の楽器の音や伴奏を聴いて、音を合わせて演奏する技能。」及び思考力、判断力、表現力等イ(ア)「器楽表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲の雰囲気合いに合いそうな表現を工夫し、器楽表現に対する思いや意図をもつこと。」に基づいている。 ・本単元では、鑑賞の学習にて既習の「喜びの歌(作曲ベートーヴェン)」を取り上げることで、聴き馴染みのある旋律を、楽器の響き合いを感じながら演奏し、友達と心を合わせて演奏することの楽しみを感じられるようにしたい。 【指導・手立てに関する教師のねらい】 ・1次では、オーケストラの演奏を取り上げて鑑賞することで、「心を合わせて演奏するために大切だと思うこと」を生徒自身が思考し、器楽の学習に般化していけるようにする。 ・「強い」「弱い(優しい)」「速い」「ゆっくり」などと対照的な演奏の仕方を見せることで、生徒自身が曲の雰囲気合いに合う相応しい演奏方法を考えて取り組むことができるようにする。 ・楽譜とそれぞれの楽器には、一音ずつ異なる色で音階を示しておくことで、楽器を演奏することへの抵抗を少なくし、「演奏することができた」という成功体験を多く積むことができるようにする。 ・ベル、キーボード、木琴、鉄琴を演奏する生徒は、ペアになって個人練習をすることで、互いの演奏を聴いたり楽器の音の違いを感じたりしながら、自己評価のみならず、他者評価をすることができるようにする。 ・演奏の様子を撮影しておくことで、合奏を振り返りながら自己評価をしたり、次時への課題を見つけたりすることができるようにする。 ・振り返り際には、生徒の実態に応じて選択式でシールを貼ったり、三段階の数字での評価をしたりする等、個に応じた振り返りシートを用意する。 ・授業のまとめの時間での全体への評価に加えて、学習活動一つ一つに対して即時評価をしていくことで、生徒があらゆる活動で「できた」という自信をもって学習に臨むことができるようにする。			

	次	時	内容	学習活動	評価規準・評価方法
単元の指導計画 (7時間扱い) 本時は第6時	1 「旋律やリズムを感じよう」	1 「器楽で大切なこと」	器楽表現に必要な技能を得ること。	オーケストラの演奏を鑑賞して、心を合わせて演奏するためにはどうしたら良いか、友達と話し合って考える。 友達とリズム打ちをする。	心を合わせて演奏するために必要なことを考え、友達と一緒に伴奏に合わせてリズム打ちをしている。 (知識・技能) [発言、ワークシート、振り返りシート]
		2 「楽器を演奏しよう」	簡単な楽譜を見て、打楽器や旋律楽器を演奏すること。	簡単な楽譜を見ながら、タンバリン、卓上木琴、鉄琴などを体験的に演奏し、演奏したい楽器を選ぶ。	簡単な楽譜を見て、音の響きを感じながら、打楽器や旋律楽器を楽しく演奏している。 (知識・技能) [発表、振り返りシート]
	2 「曲の雰囲気を感じよう」	3 「曲の雰囲気を感じよう」	曲を聞いて、その曲の雰囲気を感じる。	「喜びの歌」を聴いて、曲の雰囲気を感じ、その雰囲気に合う言葉を選択肢から選んだり、言葉で表現したりする。	曲の雰囲気を感知、雰囲気に合うような演奏の仕方を選んだり自分の言葉で表現したりしている。 (思考・判断・表現) [発言、観察、ワークシート、振り返りシート]
		4・5・6 (本時) 「工夫して表現しよう」	曲の雰囲気に合いそうな表現を工夫して、打楽器や旋律楽器を演奏すること。	前時に考えた曲の雰囲気に合いそうな表現をもとに、友達と音を合わせて演奏する。	曲の雰囲気に合いそうな表現を工夫し、友達と合わせた時の音の響きを感じて、打楽器や旋律楽器を演奏している。 (思考・判断・表現) [発表、振り返りシート]
	3 「心を合わせて演奏しよう」	7 「いいとみオーケストラ」	友達と協働し、音を合わせて演奏する楽しさを感じる。	学年全員で「喜びの歌」を合奏し、本単元の振り返りをする。	楽器の音色の違いや響き合いに気づき、友達と心を合わせて楽しく演奏している。 (主体的に学習に取り組む態度) [発表、振り返りシート]

[本時の指導]

1 本時の目標

曲の雰囲気に合いそうな表現を工夫し、友達と合わせた時の音の響きを感じて、打楽器や旋律楽器を演奏することができる。
【思考力、判断力、表現力等】

2 生徒の実態及び個別目標

① リズム打ち

◎：四分音符、八分音符、四分休符で構成されたリズムを、聴いた通りに模倣し、表現することができる。

○：四分音符、四分休符で構成されたリズムを、「たん」「うん」と、リズムが言葉で示されたリズム譜を見て表現することができる。

△：四分音符、四分休符で構成されたリズムを、教師と一緒に表現することができる。

② 打楽器の演奏

◎：ミュージックベルを一人で演奏することができる。

○：タンバリンやすず、カスタネットなどの打楽器を一人で演奏することができる。

△：タンバリンやすず、カスタネットなどの打楽器を教師と一緒に演奏することができる。

③ 旋律楽器の演奏

◎：キーボードや木琴、鉄琴などの旋律楽器を、楽譜を見ながら伴奏に合わせて一人で演奏することができる。

○：キーボードや木琴、鉄琴などの旋律楽器を、教師の言葉かけを受け、楽譜を見ながら演奏することができる。

△：キーボードや木琴、鉄琴などの旋律楽器を、教師と一緒に、はじめの一音のみ鳴らすことができる。

生徒	生徒の実態			個別目標	自立活動の目標
	①	②	③		
A	◎	◎	◎	・表現を工夫して、友達と音を合わせて旋律楽器を演奏することができる。 (思考力、判断力、表現力等)	・話し合いの進め方が分かり、自分の意見を相手に伝えることができる。
	・音楽活動が好きで、どの活動にも意欲的に取り組むことができる。 ・楽譜を見て旋律楽器を演奏したり、リズム譜を見て正しくリズム打ちをしたりすることができる。 ・二者択一で曲の雰囲気等を答えることができる。				
B	△	△	△	・曲の雰囲気を感じ、教師の動きを模倣して、打楽器を演奏することができる。 (思考力、判断力、表現力等)	・友達とのやり取りを通して、「どうぞ」「ありがとう」「お願いします」など、言葉で伝えることができる。
	・活動全般において教師の支援が必要である。 ・打楽器演奏では、教師が傍で手本を見せると、動きを真似て音を鳴らすことができる。 ・楽譜の理解は難しく、教師の言葉かけを受けてリズム打ちをしたりキーボードの音を鳴らしたりすることができる。				
C	◎	◎	◎	・曲の雰囲気に合いそうな表現を工夫し、友達の音を聴きながら演奏することができる。 (思考力、判断力、表現力等)	・困った時の対応の仕方について考え、実践することができる。
	・どの楽器の演奏も一人で取り組むことができる。 ・曲に慣れると暗譜して演奏することができる。 ・拍子や強弱記号についてよく理解しており、曲の雰囲気に合う表現を自分で考えることができる。				
D	△	△	△	・曲の雰囲気を感じて、教師と一緒に打楽器を演奏することができる。 (思考力、判断力、表現力等)	・色鉛筆で枠の中に色を塗ったり、鉛筆で線の上をなぞったりすることができる。
	・活動全般において教師の支援が必要である。 ・教師が手を添えると、打楽器を演奏することができる。 ・楽譜の理解は難しいが、「うん」「たん」や音の名前を教師の後に続いて発音し、学習に取り組むことができる。				
E	○	○	△	・曲の雰囲気に合うように、力加減を意識してベルを演奏することができる。 (思考力、判断力、表現力等)	・友達に自分の考えや気持ちを伝えながら活動することができる。
	・リズム打ちでは、「たん」「うん」のみのリズムであれば、一人で取り組むことができる。 ・教師の言葉かけを受けて、一人で打楽器を演奏することができる。 ・音の高さの違いを感じることができる。				
F	○	○	○	・曲の雰囲気に合う表現を考え、伴奏に合わせて旋律楽器を演奏することができる。 (思考力、判断力、表現力等)	・自分の気持ちを言葉で表現しながら、教師や友達と一緒に活動に取り組むことができる。
	・大きな音が苦手である。 ・これまでの器楽の経験が少ないが、キーボードの演奏には慣れてきており、人差し指を使って教師と一緒に演奏することができる。 ・教師の模倣をして、正しくリズム打ちをすることができる。				

3 展開

※形態の表記は 全体:全、グループ:グ、個別:個

形態 時間 (分)	学習活動	指導の手立て(各Tの役割等を含む)※評価は□で囲む
全 (1)	1 始めの挨拶をする。	・姿勢を正す言葉かけをし、授業の始まりを意識できるようにする。 ・ホワイトボードに本時の学習の流れと目標を提示し、活動中は常に目標を意識して活動できるようにする。 ・個別目標は、振り返りシートを予め配付することで、手元で目標を確認することができるようにする。
全 (8)	2 前時までの復習を行う。 (1)リズムと階名の確認をしよう (2)曲の雰囲気を感じよう	・前時の合奏の様子を動画で振り返ることで、曲の旋律やリズム、テンポを思い出すことができるようにする。 ・「うん」「たん」とリズムを言葉で示したスライドを提示したり、言葉かけをしたりすることで、視覚的に理解しながらリズム打ちをすることができるようにする。 ・BとDの隣で、リズム打ちの手本を示したり、難しそうな場合には手を添えたりして、リズムを感じることができるようにする。 ・四分の四拍子を意識することができるよう、指揮をする。 ・階名唱をすることで、音の高さを意識して学習に取り組むことができるようにする。 ・楽譜の強弱記号を確認することで、意識して演奏することができるようにする。 ・「どのような雰囲気の曲でしたか。」と発問をすることで、生徒自身が思考し、自分の言葉で表現することができるようにする。 ・前時までに生徒から出た曲の雰囲気に関する考えをスライドにまとめておき、「喜びの歌」の雰囲気を想起できるようにする。
グ (20)	3 本時の学習を行う。 (1)ペアになって練習しよう ①A(鉄琴)とC(木琴) ②E(ベル)とF(キーボード) ③BとD(ベル)	・生徒の実態に見合った音源付きの楽譜を作成し、それぞれのタブレット端末に送信しておく。 ・互いの演奏を聴いて他者評価をすることができるよう、ペア活動を取り入れる。 ・前時の振り返りシートを確認するとともに、改めて個人目標を確認し、生徒同士が互いに目標を伝え合うことで、生徒が本時の学習課題を実感して意欲的に取り組むことができるようにする。 ・AとCのペアは、音の響きや強弱を含む楽器の演奏の仕方を意識したり、テンポを合わせて演奏したりすることができるよう、言葉かけをする。 ・EとFのペアのやり取りが難しい場合には、発言を促す言葉かけやペア学習の進め方を伝える等して支援に入ること、安心して学習に取り組むことができるようにする。 ・BとDのペアは、教師が手を添えることで、二人で音を合わせて演奏することができるようにする。

全 (5)	(2) 友達の演奏を評価しよう (3) 合奏しよう	・ 予め評価のポイントを簡単な言葉で示したルーブリックで提示しておくことで、意識して学習に取り組むことができるようにする。 ・ 生徒の演奏に対し、称賛の言葉かけをしたり即時評価をしたりすることで、自信をもって学習に取り組むことができるようにする。 ・ 振り返りシートの「友達からの評価」の記入欄を作り、ペア活動の最中に評価できるようにする。 ・ ペア同士で他者評価をし合う時間を設けることで、互いの演奏に耳を傾けながら協働して一つの音楽を作り上げていることを感じられるようにする。 ・ 改めて曲の雰囲気や演奏する上で工夫した点について確認し、意識して演奏することができるようにする。 ・ 友達と協働して音楽活動をしていることを感じられるように言葉かけをする。 ・ B には、ベルを鳴らすタイミングで言葉かけをしたり指差しをしたりして、伴奏に合わせて演奏することができるようにする。 ・ D には、手を添えてベルの音を鳴らすことができるようにする。 ・ F の手が止まっていたり、一人での演奏が難しそうな様子が見えたりした時には、鍵盤を指差したり言葉かけをしたりして合奏に参加することができるようにする。 ・ 合奏の様子を、タブレット端末を使用して動画で撮影しておく。 A 表現を工夫して、友達と音を合わせて旋律楽器を演奏している。 (思考・判断・表現) [発表] B 曲の雰囲気を感じて、教師の動きを模倣して、打楽器を演奏している。 (思考・判断・表現) [発表] C 曲の雰囲気に合いそうな表現を工夫し、友達の音を聴きながら演奏している。 (思考・判断・表現) [発表]、[発言] D 曲の雰囲気を感じて、教師と一緒に打楽器を演奏している。 (思考・判断・表現) [発表] E 曲の雰囲気に合うように、力加減を意識してベルを演奏している。 (思考・判断・表現) [発表] F 曲の雰囲気に合う表現を考え、伴奏に合わせて旋律楽器を演奏している。 (思考・判断・表現) [発表] 曲の雰囲気に合いそうな表現を工夫し、友達と合わせた時の音の響きを感じて、打楽器や旋律楽器を演奏している。 (思考・判断・表現) [発表]
------------------	---	---

全
(15)

4 振り返りをする。
(1) 合奏の様子を動画視聴し、
振り返りシートを記入する。
<B、D、E 振り返りシート>

ふりかえりシート ()月()日

きょうのもくひょう

あてはまるところに、まるをかこう。ともだちとせんせいからもまるをもらおう。

	もう少し!	グッド!	パーフェクト!
①リズム			
②えんそう			

<A、C、F 振り返りシート>

ふりかえりシート ()月()日

今日の個人目標

自分の評価	友達の評価	先生からの評価
①リズム	②えんそう	③リズム
④えんそう	⑤リズム	⑥えんそう

友達の音を楽しむながら、
心を合わせて演奏できたかな?
できた ・ できなかった

全
(1)

5 終わりの挨拶をする。

- ・振り返りシートを2種類用意し、実態に応じて使い分ける。
- ・動画を見ながら振り返ることで、自分の姿を客観的に見ながら自己評価を行うことができるようにする。
- ・学習中における良かった点や目標に迫る評価をやり取りの中で伝えることで、生徒が「できた」と実感し、自信をもつことができるようにした上で、振り返りシートの「先生からの評価」に記入をする。
- ・B、D、E には、「上手」「できた」「まる」など分かりやすい言葉で評価を伝えることで、生徒自身が自分でシールを貼って、自己評価をすることができるようにする。
- ・各パートの良かった点を伝えたり、称賛の言葉かけをしたりするとともに、次時への見通しをもてるような言葉かけをする。

- ・姿勢を正して挨拶をすることができるように、言葉かけをする。

【板書計画】

<ホワイトボード>

*月*日(*) 音楽「心を合わせて演奏しよう」

あいさつ

今日の学習

①ペア学習

②合奏

今日の目標

「喜びの歌」の曲の雰囲気表現して、
楽譜を見ながら友達と心を合わせて演奏しよう。

振り返り

①合奏の様子を振り返る

②振り返りシートの記入

あいさつ

まわりの音を
よくきくこと!

ペア学習のポイント

- ・友達(ともだち)の楽器(がっき)の音(おと)をよく聴(き)こう。
- ・友達(ともだち)の良かったところ(よ)を見つけよう。
- ・二人(ふたり)で心(こころ)を合わせて演奏(えんそう)しよう。

評価のポイント

じぶんだけでなく、
ともだちやせんせいからもひょうかをもらおう。

まね や 学び方	レベル	もうすこし！ 1 😊	グッド！ 2 😊	パーフェクト！ 3 😊
①リズム	ばんそう 伴奏のリズムにあ わせて演奏しよう としていない。	きよく 曲の一部分は、伴奏 のリズムに合って いる。	ばんそう 伴奏のリズムと ぴったり合っている。	
②えんそう	がっき おと 楽器の音を鳴らして いる。	あひだ み きよく 合図を見て、曲の 雰囲気(ふんいき)に合うように 演奏(えんそう)している。	きよく ふんいき あ 曲の雰囲気(ふんいき)に合うよ うに自分で工夫して 演奏(えんそう)している。	

<モニターに映す主な教材>

①リズム

★リズムで演奏しよう

②階名

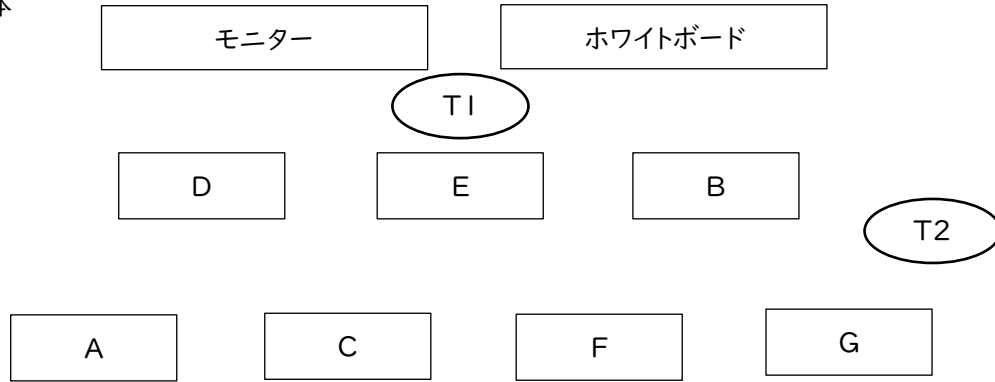
よろこびのうた

③ペア学習のポイント

ペア学習のポイント

- ・友達(ともだち)の楽器(がっき)の音(おと)をよく聴(き)こう。
- ・友達(ともだち)の良かったところ(よ)を見つけよう。
- ・二人(ふたり)で心(こころ)を合わせて演奏(えんそう)しよう。

【配置図】全体



【配置図】ペア学習

